

## 「逆差別」意識の構造と教育・啓発の課題

人権問題に関する府民意識調査検討会委員  
大阪府立大学人間社会学部准教授 西田 芳正

---

### 1. 自由記述欄分析のねらいと手順

同和地区とそこに暮らす人々に対して向けられる意識やまなざしは、かつてと比べると大きく変化し、露骨な差別的言動は姿を消しつつある。しかし同時に、見えにくい形で、また、同和地区を取り巻く状況の変化によって姿を変えて、同和地区とその住民を特別視し、否定的な意味合いを込めて捉える意識や振る舞いが一部の人々に見られるという実態があることが今回の意識調査の結果からも明らかである。

本章は、自由記述欄に書き込まれた内容を手掛かりに、そうした意識の表れと構造、背景を整理し、同時に、解消に向けた働きかけの方向を探ることを目的としている。

自由記述欄とは、アンケート用紙の末尾に、その調査のテーマに関連する事柄を自由に書き記すことができるように用意されたものである。今回の調査では、「同和問題をはじめとする人権問題や今後の人権教育・啓発について、国や大阪府、市町村に対して、なにかご意見、ご要望があれば、下記の欄に自由にお書きください」という文章の下に、A4用紙の4分の1程度のスペースが設けられた。

アンケート調査には必ずと言っていいほど盛り込まれる自由記述欄だが、データとして十分な分析がなされてきたとは言えない。その理由は、この欄への書き込みが「自由に記述」されたものだからである。統計的な手順を経て抽出(ランダムサンプリング)された調査対象者のうちの一部の人だけが自発的に記したものであり、さらにその内容は、意識や行動、経験について測定するためにあらかじめ準備された設問に対して回答されたものではない、自由に書き込まれた文章である。要するに、数量的な処理、分析作業に馴染まないだけでなく、その調査が想定する集団全体(ここでは大阪府民全体)の意識や行動、経験について、統計的に推測することができないことがその理由である。

しかし、自由記述欄に記された内容を分析することは無意味ではないどころか、そこから読み取るべき意味内容は非常に大きなものである。

まず、自由に書き記された文章は、調査対象者が強く伝えたかったメッセージであり、その内容は、書いた本人だけでなく、多くの人たちに共通する経験や意識を明確な形で示したものである場合が少なくない。類似した記述内容を重ね合わせ、他と突き合わせることによって、共有された経験や意識、そのバリエーションを知ることができる。今回のように、多数の自由記述を分析することで、そのメリットをいかすことができるだろう。また、調査者側があらかじめ想定していた内容、設問を超え出る部分について捉えることが可能な点があげられる。同和地区に対して人々はどうのように意味づけているのか、その今日的な表われを読み取るのが可能となる。そしてさらに、意識や経験がある程度まとまった文章として記されることから、それらを丹念に読み解くことにより、意識の構造、そ

れが生まれる背景、広く浸透していく仕組みについて検討することが可能になる。

このように、分析手法として大きな意義を持つはずだが、読み取りに際しては慎重な姿勢が求められる。書き記された内容から共通する要素を取り出し、他の記述内容と突き合わせたり、設問への回答についての数量分析と対照するなどの作業も必要になるだろう。もちろん、ごく少数のユニークな意識や経験であっても、それが生み出された背景についての考察は重要である。

書き記された意識と経験、その背後にある要因の連関を捉えるために、それぞれの記述をひとまとまりのものとして分類、コード化するのではなく、記述された文章を構成する複数の要素についてそれぞれ見出しを付け、その一つ一つを分析の素材とする。それらをさらにグループ化し、他の記述内容や設問への回答、記述した人の属性などとの関連を確認する作業を進めていった。

なお、自由記述欄に何らかの書き込みをした方は合わせて 265 人で、有効回答者 903 人中の 3 割弱にあたる。性別、年齢ともに全体と同様の分布であった。

本論に入る前に、自由記述の内容をそのままの形で掲載する理由について述べておきたい。

自由記述には、同和地区の状況、地区の人々の生活、これまでの同和行政のあり方、さらには教育や啓発活動に対する厳しいコメントを記したものが少なくない。それらの中には、誤解や偏見にもとづくもの、同和地区への差別的な意識が示されたり差別を助長しかねない言葉を記したものもある。以下で、それらの記述内容をそのままに掲載しているのは、次のような判断をしているためである。

同和对策事業特別措置法が 1969 年に制定されて以来、長年にわたり同和地区、同和地区出身者に対象を限定する特別措置としての同和对策事業が行われ、さらに、特別措置の根拠となってきた法律が失効した 2002 年以降 10 年の間、一般施策を活用して、残された課題の解決に向けた取組みがなされてきた。その成果として、同和地区の生活実態や周囲からの差別意識等について大きな改善が見られるのだが、以下で見るように、同和問題の解決に向けた施策に対して、そして同和地区の住民の意識や行動に対して批判的なまなざしが向けられていることが明らかとなった。さらに、その内容を詳細に検討すると、こうした意識をそのままに放置しておけば同和地区に対する差別的な意識を次世代に残してしまうことになりかねないという強い危惧を抱かざるを得ない。同和問題の将来の行方を考えるとき、そうした意識を「ねたみ意識の表われ」、「誤解と偏見」として否定するだけで片付けることはできないのであり、詳細な分析と教育・啓発面での対応が求められる。

部落差別によって深く傷つけられる経験をされた方々、同和問題を解決するために努力を重ねてこられた方々には「読むに堪えない」言葉が含まれることが予想されるが、そうした問題意識に立つての方針であることを理解いただきたい。

## 2. 「逆差別」意識の構造と背景

265 ケースの記述の中で多く用いられた言葉の一つが「逆差別」であった。この言葉に込められた意味はどのようなものだろうか。最新版の『広辞苑』にも記載されておらず、日本語として定着した言葉とは言えない。以下に、「逆差別」が使われた 19 ケースのうちいくつかを引用しよう。

なお、引用の際、明らかな誤字・脱字を修正した他、【 】の中に文意を補う注記を加えた。文中の（ ）は、記述の中に用いられているものである。複数の内容が書き込まれている場合、見出しに対応する記述のみを掲載したもの、一部を要約し【 】内に示したものもある。また、引用の末尾に年齢と性別を付記した。

### 2-1 「逆差別」意識とその典型例

- 同和問題、はれものにさわる様な手厚い援助はやめてください。現在は逆差別そのものです。〔60 歳代女性〕
- 同和であることをたてに取って得をしてる人が多いです。逆差別の人たくさんいますね。誰が見てもおかしい同和対策が多いです。〔60 歳代女性〕
- 逆差別を受けている様な気になる。〔40 歳代男性〕
- 同和問題については逆差別だと思う。例えば、住宅の家賃についても同和の方々が住まわれている団地は非常に安く、普通の府営住宅の十分の一程度の値段であったり、道交法も甘いのが常である。〔30 歳代男性〕

これらの「逆差別」という言葉の用法からは、同和地区とその住民に対する特別な優遇がなされ、それを行ってきた行政の対応と、対策を要求してきた地区住民の姿勢と生活がともに問題とされ、さらには同和地区以外の住民の方が逆に差別されているという意識を抱いていることを読み取ることができる。

なお、同和問題の解決に向けた施策について、大阪府は次のように説明している。「大阪府では、財政上の特別措置を講じるための法律が失効した 2002 年(平成 14 年)からは 2001 年(平成 13 年)に出された大阪府同和対策審議会の答申に基づき、部落差別を解消し、すべての人の人権が尊重される豊かな社会の実現をめざして、周辺地域と一体となったコミュニティの形成を図ることを基本目標とし、一般施策を活用して、同和問題の解決に取り組むとともに、2008 年(平成 20 年)の大阪府同和問題解決推進審議会の提言を踏まえ、府民の信頼と理解のもとで、同和問題解決に向けた効果的な取組みを推進しているところです。」(人権情報ガイド『ゆまにてなにわ vol 25』)

特別措置としての同和対策事業は終了し、残された課題について一般施策を活用した取組みをしてきたのであり、「同和地区への優遇」や「行政による特別扱い」が今日なお継続しているという認識は誤解、ということになるのだが、その誤解の内容と誤解が広がっている背景について詳細に検討することが必要である。

以下では、「逆差別」という言葉は用いられていないが同様の内容を書き記したコメントを合わせて検討し、「逆差別」意識の構造と背景を検討していく。

## 2-2 同和地区への特別扱いと行政の姿勢

### ■地区への優遇、行政による特別扱いに対する批判

同和地区が優遇されてきたことへの疑問や反発を記したものの、そして特別扱い、優遇してきた行政の姿勢に対する非難のコメントが数多く記されている。合わせて 40 ケースほどになるが、そのうち半数を引用する。

同和対策事業で建設された施設の立派さ、家賃や税金などでの有利な扱い等が具体的な優遇の事例として指摘されている。

- 市民より国が差別していると思う。特別扱いせず(例えば住まいとか…金額を聞いてびっくり、分からないです) [70 歳以上女性]
- 市などが特別あつかいしているのもおかしいと思います。 [70 歳以上女性]
- 行政もあまりにこの問題を取り上げていることに疑問を持っています。同じ人間、日本人同志、仲良く明るく暮らしたいと思います。 [70 歳以上女性]
- 同和地区に対して、あまりにも優遇している様に思う。 [70 歳以上男性]
- 同和地区と言うことで優遇処置することで差別していると同じである。 [70 歳以上男性]
- 同和をなくして下さい。同和の人の生活を優遇しないでください。 [60 歳代女性]
- 特別扱いをすることが逆効果になっているのではありませんか。 [60 歳代女性]
- 同和問題を特別にとりあつかっているのかな。それが不思議です。同じ人間なのに。 [60 歳代女性]
- その人達が住む所に立派な建物が建ち過ぎです。 [60 歳代男性]
- 同和問題だけを特別化せず、差別撤廃の全体の取組みとして行うべき。 [60 歳代男性]
- 同和問題と特別にしないで、すべての人間は同じ扱いをすれば良いと思う。 [60 歳代男性]
- 同和対策は不公平だと思う。優遇されていると思う(同和地区に住んでいる人の話を聞いて)。 [50 歳代女性]
- 昭和 40 年代、同和地区の小学校は設備が素晴らしく、逆に行政の優遇で我々が差別されている様な感じを受けました。 [50 歳代男性]
- 同和地区に対する市営住宅や税金等公共料金等に特別感をいただいている。必要以上に優遇されている。 [50 歳代男性]
- ここは同和地区ですと言っているのは、特別な対策をしている行政ではないのか。 [50 歳代男性]
- 過剰な優遇が差別を強めている。…なぜ、部落の方だけ税金や家賃など etc 優遇されるのか。そんな事をするから差別的な言動が減らないと思う。 [40 歳代男性]
- 同和地区だけ小学校にエレベーターや冷暖房がある。 [40 歳代女性]
- 同和問題で行政の関与は過剰だと感じている。 [40 歳代女性]
- 同和地区の人達にだけの特別制度(特に金銭的なもの)は廃止してみんなと同じに

する。〔30 歳代女性〕

- 同和対策にお金がかかり、市は貧乏のままだと思う。〔30 歳代女性〕
- 人権問題は府政の問題ではないと考えます。血税の無駄な使用はただちに停止すべきです。〔30 歳代男性〕
- 同和を特別視するのはやめてほしい。〔20 歳代男性〕
- 市自身が差別しない(税金とか)事だと思います。〔年齢性別不明〕
- 同和問題＝人権問題であるなら、他の問題(ハンセン病、HIV、障害者等)と同じ対応でいいと思われるが、何か特別扱いされているように思われる。〔年齢性別不明〕

### ■役所の弱腰の姿勢

行政の特別扱いだけでなく、この問題に対して行政の姿勢が「弱腰」、「事なかれ主義」であった点についての非難のコメントも 8 ケース記されている。

- 今までの同和行政は、ことなかれ主義の金銭たれながしだったと思います。一般の国民にとってはそちらが差別であったと思います。〔60 歳代女性〕
- 【報道された】事件のように税金が暴力団に食いものにされたことを行政は反省すべきである。〔50 歳代男性〕
- 同和問題を理由に不当な利益を得る人々が多いことが納得できない。また、その問題を同和問題にかかわりたくないという理由で、行政も警察も見てみぬふりや、野放しにしていることも理解できない。〔40 歳代男性〕
- 行政にしろ同和地区には甘い。〔40 歳代女性〕

## 2-3 同和地区住民の姿勢や生活への非難

### ■贅沢な暮らしとルール違反

特別な優遇措置を受けている同和地区、という認識とセットになるものだが、地区住民の生活に対する非難のコメントが 9 ケース見られた。贅沢な暮らしをしている、ルールが守られていない、などについての言及がある。

- 差別はしてはいけない事ですが、行政は税金で同和、障害者の支援をするのですから、本当に必要なケースのみに使って欲しいです。障害者が大変な事は事実ですが、家庭が裕福で行政の支援が必要のない人でも、本当に支援が必要な人にも同じように税金を使うのは反対です。同和にも、本当に本人が努力しているにもかかわらず、差別で困っている人たちばかりなのではないでしょうか。行政の支援を食べ物にして、仕事もしないで薬物まみれの人たちもたくさんいるようです。そんな人に税金を使うのはどうでしょう。よく調査してからにして欲しいと思います。〔50 歳代女性〕
- その地域の道路は、そこらじゅうに車を駐車している。なぜ、駐禁にしないのかと思うほどひどい状態です。〔40 歳代女性〕
- 家も税金を払わないだけキレイな大きな家がある。〔40 歳代女性〕

## ■強引な要求・圧力と不当な利益について

優遇措置について、地区住民が行政に対して強引に要求、圧力をかけることで不当な利益を得てきた、といった見方をしている人も少なくない(12 ケース)。

また、これとは別に、「えせ同和行為は許せない」とする記述が 14 ケースあった。

- 同和地区を利用している人もいるようだ。〔70 歳以上男性〕
- 同和問題を理由に不当な利益を得る人々が多いことが納得できない。〔40 歳代男性〕
- えせ同和行為に対し行政は弱腰のようではがゆいです。マスコミの力を借りてやっとう動いているように見えます。怖がらず頑張ってください。〔70 歳以上女性〕
- 心のこもった同和対策が必要。同和の名をかりた欲ばりな方が実際におられます。〔40 歳代男性〕
- 同和団体と議員(府、市、国)が公共事業落札業者に圧力をかけ、同和団体の親族経営等、関係会社が下請契約を受け、その謝礼が議員にいつている。〔40 歳代男性〕
- 昔あったような差別より、変な利権がらみの話がよく耳に入ります。〔40 歳代女性〕
- えせ同和行為をやっている人をきびしく取り締まってほしい。〔年齢性別不明〕

## ■差別反対運動が問題

差別反対の運動を展開することが逆に差別を生む、といった指摘もある(6 ケース)。

- 同和地区の人の集まり(集会)を聞くと、周りの人たちと自分達でへだたりをつくってような気になる。〔30 歳代男性〕
- 今の子ども達に差別の意識は非常に少ないと感じる。大人や同和地区に住んでいる人々が、少し騒ぎ過ぎではと思うところが大いにある。〔30 歳代男性〕
- 大規模な差別反対運動は逆効果になると思う。〔30 歳代女性〕

## ■被害者意識

地区住民の側の被害者意識についての言及も 6 例見られた。こうした受け止め方は、次に検討する「部落差別は過去のこと」という意識と重なるものと言えるだろう。

- 同和者は被害意識が多すぎる面もある。〔70 歳以上男性〕
- 【同和問題に関心があったが、実際地区に住んで逆差別を感じた。以来関心はない】差別は悪いことですが、何かにつけて「ウチが同和だから…」と逆ギレされるとこちらはそんなつもりは無いのに腹立たしく思います。〔40 歳代女性〕
- 難しい問題であるとは思いますが、差別された等言う前に、本人達の意識もかえる必要があるのでは。税金等良い思いをしている事はだまって見すごし、悪いことのみ表に出しすぎでは。〔40 歳代女性〕
- 差別されているという方が差別をつくっていると思います。差別されていると云っている方がまず思わないで下さったら、その方が良い方向に行くと思います。市のマンションに入居されているのをみても、すごくぜいたくされている様にみえます。〔年齢性別不明〕

## 2-4 部落差別に関する認識

ここまで、地区住民を優遇してきた同和対策、また、それを求めてきた地区住民の姿勢や生活のあり方に対する非難の記述を見てきた。こうした意識は、部落差別の実態に関する見方とセットになったものだと言えるだろう。すなわち、部落差別は過去には厳しいものだったが現在はもう解消している、残っているものについても「騒がず黙っていればなくなる」のであり、そんな状況であるにもかかわらず地区への優遇施策が継続されていることこそが問題の根源である、また、その根拠とされてきた「同和」という言葉が使われ続けていることも問題だ、という認識である。

### ■部落差別は昔のこと

まず、「差別が厳しかったのは昔のこと。今は、若い世代は差別意識はない」といった記述が、合わせて 21 例見られた。このうち、「学生の頃はこの問題(同和)をよく耳にしましたが、最近はあまり聞かないので、よい方向に解決されて来ているのではないかと考えておりますが。民主主義から言っても、すべての人は平等であるべきで差別されるべきではありません。それは学校教育の場でもっと教えるべきだと思います」〔70 歳以上女性〕といった、「差別はなくなるべきで、その方向にある」とする記述が 4 例、「現在の大阪市で同和問題が存在するのか疑問に思う」〔60 歳代女性〕などと、単に「差別はなくなりつつある、なくなっている」とするコメントが 7 例、残る 10 ケースが、「なくなってきたのに優遇されている、騒ぎ過ぎ」という記述であった。以下は、このタイプの例である。なお、21 例の大半が 60 歳代、70 歳以上であり、40 歳代以下は 4 人にすぎないが、そのすべてがこのタイプに入ることも注目される。

- 同和問題という事がいまだにあるのでしょうか。ただ、市役所等の垂れ幕等がそういう事を知らしめてると思う。〔60 歳代男性〕
- 昔の話で今頃そんなに気にする人がいるか不思議な気がする。同じ日本人なのに同和の人もどうどうと気にせず生きていけば良いと思うが、自分が皆さんの事知らないからそう思うのかな。〔60 歳代女性〕
- 昔と比べて同和問題はなくなって来たと思います。しかし、同和地区に住んでいる人達は、自分たちが弱者であるというのを武器にして、不当に金を国や府、市からとっていると思います。だから、それを知っている人は差別というか、軽蔑しているんです。自分たちが不利益な事は団体で圧力をかけたりして有利にする。同和の方は、私から見れば優遇されているように思います。〔40 歳代男性〕
- 同和問題は昔の事であって今は若い人でも気にしていない。同和の人達が文句ばかりつけているだけだと思う。【略】これからの時代人権問題とくに同和問題は若い世代、昔の事で関係がないと思う。思っているのは同和の人だけです。〔30 歳代男性〕
- 昔は部落の人達は差別を受けてきたかもしれないが、今では過剰に待遇が良いと聞くので過剰に待遇を良くするのは控えた方が良く思う。〔20 歳代男性〕

## ■黙っていれば差別は無くなる

後に教育についての記述の中で取り上げる「学校でわざわざ教える必要はない」という内容も、合わせて 21 ケースあった。

- 今の時代、そのような事はもう思わないのではないのでしょうか。知らないと思います。私も 3 人の子供がいますが全く知りません。かえって寝ている子を起すような今の時代になっているように思います。〔70 歳以上女性〕
- 人権問題、同和問題等をマスコミ等があまり取り上げ問題にしない方が無くなって行く様に思われます。私達の年代、昭和 22 年以降に生まれた者の中には、特に今回の問題に対しては、取り上げる者がいるから問題になる。又、過去にこの様な差別が有った事を知らない若者に知らなくてもいい事まで知らせてしまう様に思われます。忘れてはいけない過去であっても、こう言う問題を取り上げる事によっていつまでも問題は続くと想います。〔60 歳代男性〕
- 私達の世代(40 歳代)の次の次の世代には同和問題などほとんどなくなっている様な気がする。それでいいと思う。自然になくなって来るだろう。子供も口にはしないし、私も子供には何も言わない。同和地区の友達も自然に付き合っているし、それを私自身も一度も否定した事はない。子供もどこまで同和地区の事を理解しているのかわからないし、全く知らないのかもしれない。無知なところに間違った偏見を持たすよりきちんと理解させていくのがいいか、無知なまま知らない方がどちらかという方がいいのではと思う。〔40 歳代女性〕
- 今の子供達に差別の意識は非常に少ないと感じる。大人や同和地区に住んでいる人々が、少し騒ぎ過ぎではと思うところが大いにある。歴史として認識する事は非常に重要だと思うが、逆に差別という意識、記憶に大きく影響を及ぼしていると思うことがある。〔30 歳代男性〕

## ■優遇をなくせば、同和対策をなくせば差別はなくなる

19 ケースが該当するが、このうち過半数が 40 歳代以下であり、若い世代にこうした意識が抱かれていることをうかがわせる。

- 同和地区ということで優遇処置することで差別していると同じである。〔70 歳以上男性〕
- 本当に差別をなくす気があるのならば、優遇措置はやめるべきです。〔60 歳代男性〕
- 国は差別を無くす為にも、支援に対する考え方を変えていただきたい。本当にこまっている方々への支援なら賛成ですが、支援を受ける人々のマナー、考え方、お金をばらまく国の体制が変わらない限り、差別はなくならないと思います。本当に困っている人々を見定める力を、仕組みを国は持っていただき、支援してもらってる人々にも秩序を持って行動していただきたいと強く思います。〔50 歳代女性〕
- いつまでも同和地区に対して優遇されていると同和問題は無くならないのでは。〔30 歳代男性〕



- 同和地区の給料格差は、ある世代を超えたら一定やめないと、いつまでたっても同和地区は変わらないと思う。〔20歳代女性〕
- 同和地区だからといって、行政に優遇されるのはおかしい話だし、そもそも優遇する事自体が言い方を変えれば差別している事と同じだから。〔20歳代女性〕
- 特別に扱うから、いつまでも問題があるのではないですか。〔年齢性別不明〕

#### ■ 「同和」という言葉を使うこと、同和地区という固定観念が問題

こうした内容を記したものが23ケース(先の「優遇をなくせば」と重なるものが4例)見られた。

- 府民の納得の行く援助に修正して欲しい。長期間同和という観念を利用し、援助を続けるとゆがんだ人間観が成長し社会の反発を招く。〔70歳以上男性〕
- 同和地区というこの言葉をやめてほしい。これこそ差別だと思う。〔60歳代女性〕
- 同和問題と特別にしないで、すべての人間は同じ扱いをすれば良いと思う。住む場所も特別に作らないで、普通に生活をしていれば良いと思う。〔60歳代男性〕
- 差別の事はあまりわかりませんが、同和地区をなくしていけばわからなくなるのではないですか。そこに住むからそういった目で見られていると思います。〔50歳代男性〕
- 同和という言葉が差別だと思う。〔50歳代男性〕
- 同和地区はどこが同和地区なのか区分けがある事が差別であり、同和地区は行政から優遇があるとか、えせ同和行為を無くさないと同和地区問題、人権問題は無くならない。悪い事をしていない人を同和地区だからと差別(区別)するのはおかしく、平等にならないといけない。〔50歳代男性〕
- 同和問題に関しては、「同和」という言葉を国が残してる事が一番の問題だと思います。同和地域に住んでいる友人がいますが、確かに様々な悩みを抱えてるみたいですが、国からの支援したい差別の様な感じがします。〔50歳代女性〕
- 同和地区に固まって住むのではなく、バラバラに住み、同和地区人という固定観念を外し、辛かった時代を忘れろとは言いませんが、引きずらずに生活してほしい。〔30歳代男性〕
- 同和地区に関して(部落)同和という言葉を使っている事が差別だと思う。いくら支援しても何も助けにならない。…同和という言葉がなくなれば、いずれ差別もなくなると思います。意識する必要があるのは、国や府がいつまでもその言葉を使いながら無駄に支援のお金をバラまいている事。自立とは普通の地域と同じようにし接する事だと思います。〔20歳代男性〕

次に、こうした意識傾向をもたらす背景について、情報経路と生活状況の二面を取り上げて検討していこう。

## 2-5 「逆差別」意識を維持・強化する情報経路

### ■伝聞と噂、マスコミ情報

ある認識が抱かれるためには、何らかの情報が元になっているはずである。それでは、「逆差別」意識として検討してきた同和地区に対する認識は、どのような経路で得られたものだろうか。

記述の内容からは、親族、職場や近隣の人々から差別的、否定的な情報が伝えられる傾向を読み取ることができる。9 ケースの記述があった。この調査には「同和地区の人はこわい」あるいは「同和対策は不公平だ」というような話を聞いたことがあるかどうかを問う質問が用意されており、6 割の人が聞いたことが「ある」と答えている。さらに、「誰から」を問う質問への回答は、「友人」、「近所の人」、「職場の人」が3~4割ほどで、それに「家族」(25%)、「親戚」(13%)と続いている。

身近な人達とのやり取りを通して同和地区についての否定的な情報が伝えられていることがわかるが、自由記述に記された経験もそうした傾向を裏付けるものである。

- 関東方面では余り聞かなかったように思う。結婚をする頃に関西に居た伯母達から聞き知った。〔70歳以上女性〕
- 同和問題の事は良くわかっていません。私は地方から18歳で大阪に来ましたが、同和の事は大阪に来て初めて知りました。現住所に結婚を期に本籍を移す際に大阪の人はやめた方がいいよと言いましたが、特に気になりませんでしたし、現在まで何も不便や不自由はありませんでしたし、一体、具体的にはどこが同和地区なのかわかりませんし、あまり身近な問題でないので良くわかりません。〔60歳代女性〕
- なぜ、部落の方だけ税金や家賃など etc 優遇されるのか。そんな事をするから差別的な言動が減らないと思う。現に、目上の人からそのような事をよく聞かされた。〔40歳代男性〕
- すぐ近隣に同和地区があるらしいが、具体的にわからない。今だに問題や差別がつづいているのか感じたことはないので、普通に同じように生活しているものと思っていた。【略】今だに差別を言いつづけている高齢者はたしかに多い。〔40歳代女性〕
- 年配の方も、こそこそと子供に教えている。まるで自分の知識をひけらかす様に。教え続け、継承し続けることが不自然だ。〔30歳代男性〕
- ~市は同和に手厚すぎると言う話を聞いた事があります。〔30歳代男性〕
- 私は同和問題について結婚をしてから知りました。新居を探す際、あの辺りは部落だからとか、あまり良くない所だから車で通らないようになど。実家(府外)の近くにはそういう所がない(知らない)からか、実父母とはそのような話をした事はありません。〔20歳代女性〕

9 ケースの中には、情報の出所についての言及がない「今では過剰に待遇が良いと聞く」、「【住宅の家賃の】金額を聞いてびっくり」、「【助成金が暴力団の】軍資金の一部になっている話をよく聞くから」といったコメントも含まれる。

マスコミやインターネットを通して情報を得たという記述も、2 ケースあった。特に

若い世代については、いわゆる「ネット言説」として同和地区に対する否定的なメッセージが流されているようである。2 つ目のコメントは、そうした「ネット言説」に批判的な立場からのものだが、ネット上でどのような情報がやり取りされているのかについて、改めて把握することが必要だろう。

- 【小学校で狭山事件について学び】「差別は決して許してはいけない」と強く心に思いました。ただ、私自身が大人になって色々な事を見聞きし、報道などで弱者と呼ばれている人たちの中には疑問に思うこともあり、真実がよくわからなくなる時があります。〔40 歳代女性〕
- 同和問題にしても、外国人問題にしても、～人だからだめとか、～地区の人だからだめではなく、その人個人がどうなのかで判断するべき。最近インターネットで見かけるとそう感じます。〔30 歳代男性〕

### ■直接の体験・見聞

ここまで見てきたのは伝聞情報であったが、直接に自身が経験あるいは見聞きした事柄についても記述されている。

まず、威圧的な態度、同和地区を理由とした理不尽な要求について直接目にしたとする記述があった 4 例を示す。

- 身近に起きた同和問題(30 歳代)で同和地区団体の相当の身勝手さに、以後、同和問題、同和地区、同和地区団体に余り良い印象は持っていない。〔70 歳以上男性〕
- 通りがかりでのいざこざで、同和地区の方が「私はその地区の者だ」と代紋であるかの様に使っていたのを目にしたことがあります。それもおとなしそうな、平凡な会社員風の人であったので、ほとんどの同和地区の人は切り札の武器としている様に思いました。地区外の人意識改善も必要ですが、同時に地区内の人意識改善もかなり必要なのでは。そのとりくみが最優先なのは。〔40 歳代男性〕
- 同和の人達が文句ばかりつけているだけだと思う。この前役所から出た時に車に箱乗りしてた同和の若い人達を見てやくざかなと思った。〔30 歳代男性〕
- 税金も払わず、何かあれば市役所にたくさんの人でおしかけたり、大きな声でどなりつけたりしてる事を見たことがあります。〔30 歳代男性〕

また、自身が同和地区の中や近辺に住んで人々の暮らし振りを目にする、地区の人からの話を聞いて「逆差別」意識を強めた、ルールを守らない人がいる、住民の被害者意識の強さに驚いたという経験が 5 ケース記されている。

- 同和対策は不公平だと思う。優遇されていると思う(同和地区に住んでいる人の話を聞いて)。〔50歳代女性〕
- 同和問題を知ってから大変関心がありましたが、実際同和地区といわれる地域に住み、逆差別ではないかと感じることが多々ありました。それ以来、同和問題に関心はありません。〔40歳代女性〕
- 現在、同和地区の近所に住んでいます。同和の人も普通に暮らしているし、子供の学校にも同和の人はたくさんいますが、友達にも同和の人はいるようです。ただ一つ気になるのは、同和の人の逆差別です。なぜ、うちの市の公務員には同和の人がとても多いのでしょうか。水道代や税金を払っていないというのは本当ですか。同和の人は金持ちばかりですよ。そろそろ国や大阪府は同和事業や生活保護に対してきびしく対応していくべきだと思います。〔30歳代女性〕
- 高校生の時に怖い思いをしたので、今でも同和地区の人は嫌いです。主人が転勤が多いので、色々な県に住みました。～県で仲良しになったママ友が同和地区の人でした。ショックでしたが、みんながみんな怖いのではないのだと感じましたが、少しズレている所があったのは事実です(禁止されているのに運動会でビール飲んだり等)。だからといって友達をやめたいとは思いません。離れてもメールや年賀状のやりとりは続いています。〔30歳代女性〕

単なる噂レベルだけではなく、実際の体験、見聞を元にした印象が抱かれ、さらにそれが近い人々に伝えられているという一面があるのだろう。同和地区住民であることを理由とした理不尽な要求などの行為があったとすれば、同和地区への差別を助長するものとして厳しく批判されるべきだろう。ただし、例えば同和地区への差別的な言動により深く傷つけられた人がいるといった場合には、抗議の言葉が激しいものになることもあるだろう。それぞれの出来事や情報について、その背景や文脈についての知識が得られていれば、印象は大きく変わったものとなった可能性もあり、一面的な情報が独り歩きし広められているという場合も考えられる。

さらに、2-3で例をあげた地区住民の「ルール違反」についても、地区外の住民にも見られる行為や生活実態がことさらに同和地区と結び付けられて語られてしまう傾向も指摘できるだろう。

また、過去になされていた同和対策に関する知見を元に、今もそれが引き続き行われているという認識となっていることも考えられ、この点は、同和問題の解決に向けた施策の現状を正確に伝える啓発の課題といえることができる。

## 2-6 背景としての生活状況と意識

次に、視点を変えて、「逆差別」的な意識の背景にある生活状況について見ていきたい。

### ■一般市民が行政から差別されている

次に示すように、同和対策により、地区外に住む自分達が「逆に差別されている」と

いう認識を持つ人がいることがわかる。7 ケース見られた記述のうち半数ほどの例をあげる。

- 同和地区の人々は差別されているのではなく、非差別地域の人々を差別している。行政もそのことを支援、促進しており問題が非常に大きい。〔50 歳代男性〕
- 同和地区の住民より一般の住民が行政から差別されているのでは。府や市が取りくむ事は一市民も同和も平等にしていかななくては解決しないのでは。〔40 歳代男性〕
- 逆差別を受けている様な気になる。〔40 歳代男性〕
- 同和の人たちは、自分たちは差別されていると言うけど、普通の人たちの方が差別されてると思う。〔30 歳代男性〕

### ■「逆差別」意識の保持者の生活苦

こうした「逆差別」意識を強く持っている人々について、自身の生活が非常に苦しいものになっていることがそうした意識を抱かせている背景となっていることが考えられる。「なぜ同和地区だけが優遇されるのか」という書き込みと合わせて、自身や近親者の生活の厳しさを記すものが7 ケースあった(他に、生活苦についてのみの記述が1 例、もう1 例は「ゆとりのない時代だから啓発は困難」という内容である)。

- 行政が神経質になりすぎと思う。私達の生活の方が苦しい生活です。人権問題を話題にする事が問題を大きくしているのと違いますか。多大な税金の無駄使いをいつまで続けるのですか。〔70 歳以上男性〕
- 【市の予算で同和地区には膨大な金額がつき込まれているとの指摘】家賃その他安い。私の甥達はサービス残業あたりまえ。調子がわるくとも病院へ行く間もない。朝も早く、夜は 12 時頃帰宅、土曜出勤もあり給料も安い。結婚しても共稼ぎ。生活保護の方が一般年金で暮らしているより楽の様。若い時から節やくして、病気になれば医療費は高いし心配が多い。〔60 歳代女性〕
- 大阪府民の生活を楽にして下さい。〔60 歳代女性〕
- この時世、生活が苦しいのは部落であろうが、部落じゃなかろうがみんな一緒。税金を納めるのも、家賃を払うのも苦しい。なぜ、部落の方だけ税金や家賃など etc 優遇されるのか。〔40 歳代男性〕
- 難しい問題であるとは思いますが、差別された等言う前に、本人達の意識も変える必要があるのでは。税金等良い思いをしている事は黙って見すごし、悪い事のみ表に出しすぎでは。私は母子ですが、まじめに働く者こそ税金や国保等しんどくなり、損をする様に思えます。人権問題と離れてしまうかもですが、弱い者に強く、強い者に弱い行政を感じます。〔40 歳代女性〕
- 人権問題の最大の原因は貧困の差だと思います。部落出身であれ、障害者の方達であれ、裕福な環境であれば差別されることなどあまり無いのでは。同和地区に住んでいる金持ちの人達(同和問題にあてはまる人)よりも、明日の生活もままならない私のような貧乏人は生きづらい国になりました。〔40 歳代女性〕

- 良くも悪くも特別な扱いをするから差別はあると思う。そんな税金を使うなら税金を安くする方法を考えて下さい。それより府民の生活を考えて下さい。〔30歳代男性〕
- 同和地区以外で暮らしていても、それなりに大変なことはたくさんあるし、税金に追われて(固定資産税、市府民税)苦しい生活をしている。本当に、税金は生活を悪化させてます。市町村の公務員の給料考え直してほしい。〔30歳代男性〕

### ■ 自助・自立の強調

生活苦が背景にあるとは必ずしも言えないが、同和対策への反発は、多くの人たちが共有している「自己責任」意識、「自助・自立」した生活をよしとする考え方とセットになって抱かれていることがうかがえる。そうした記述は9例見られた。

- 同和地区を利用している人もいるようだ。〔70歳以上男性〕
- 人は皆同じで差別はいけないと思います。でも保護(生活)と一緒に、もらえるものはもらわな損やという考えには、一生懸命働いている側からしたら、自分にできる限りの事をして、それでダメだったら支援が必要だと思いますが、皆しんどい時代だから昔のことをあれこれ言っても仕方がない。例をあげれば、医療がタダやからたいした事なくても毎日病院へいく、働けるのに働いたらひかれるから損やというのは何かなあと思います。ほんとうにしんどい人は助けないかんけど、働かんと金もらって(国)、ゆっくりしてる人は逆差別とちがうかと思う時がある私は変ですかね。〔60歳代女性〕
- 支援にたよらず生活している人達もいるのに、支援をあたりまえの様に感じて、気に入らない事があると暴力的にうったえる一部の人がある為に、まともな考えを持った人達まで一緒にされてるのは国の問題だと思います。【略】同和、外国籍の方々に関して言えば、普通の生活の上で差別はされない様な気がします。働けるのに働く努力をしない、社会に適応しようとしらない人々が差別されるのはあたり前だと思います。適応して生活されている方も大勢いるはずです。〔50歳代女性〕
- 同和地区で住んでいる人達の自己啓発が大切。それぞれの人が自分をしっかり持って生活したいです。行政に甘えず住んでいきたいです。〔年齢性別不明〕

### ■ 「逆差別」意識のバリエーション

「なぜ同和地区だけが優遇されるのか、自分たちが逆に差別されている」といった意識は、同和地区だけに向けられているわけではない。「在日外国人、生活保護受給者などが優遇され、自分たちの生活が圧迫されている、権利を踏みにじられている」というコメントを記したものが6ケース見られた。

- 人権問題として取り上げられている同和、外国籍以外にも最近の不景気な時代には一般人もいろいろ差別されている事も苦難に遭遇する事も多々あるものだ。行政は何も手を差しのべてくれはしない。多くの人は、無関心なのではないだろうか。むしろ、同和、外国籍の人たちの方が優遇されていると認識している人の方が多いのではないか。〔60歳代男性〕
- 逆差別は何か疑問に思います。それから生活保護を受けている人達の中にずるい人がいっぱいいます(年金生活の人より生活のレベルが違いすぎるなど)。もっときびしくチェックする必要があると思います。〔50歳代女性〕
- むしろ逆差別をなくして頂きたい。同和だけでなく在日利権など。〔30歳代男性〕
- ただ一つ気になるのは、同和の人の逆差別です。なぜ、うちの市の公務員には同和の人がとても多いのでしょうか。水道代や税金を払っていないというのは本当ですか。同和の人は金持ちばかりですよ。そろそろ国や大阪府は同和事業や生活保護に対してきびしく対応していくべきだと思います。〔30歳代女性〕

先にも整理したとおり、こうした意識の背景には自身の生活の苦しきがあるものと思われる。しかし、非難の対象とされている外国人についても生活保護受給者についても、その生活実態がどれほど知られているのか、また、そうした人々が生み出された歴史的な経緯についての認識は乏しいままに非難の眼差しが向けられていることが予想される。外国人への「優遇」や「利権」についても、どのような現実を指しているのか疑問である。

生活保護など最低限の生活を支える制度や施策を表面的に「優遇」と捉え、その切り下げや解消を願う意識について、結局のところ自分自身の生活の支えを掘り崩してしまうという意味で「底辺への競争」と呼ぶ研究者もいる。「同和利権」を非難する意識傾向も含め、こうした側面について十分踏まえた上で、その認識のあり様を捉え直してもらう働きかけが求められる。

同和問題の分野では、これまで学校内外で取り組まれてきた教育や啓発が、こうした役割を担うことが期待される。しかし、そうした働きかけが人々に的確に受け止められてきたのかどうか、その点を次節で検討することにしよう。

### 3. 教育・啓発の受け止め

#### 3-1 否定的なコメント

まず、教育に対する否定的なコメント 14 例のうち 6 ケースを以下に示す。

- 私は大阪に住むまで同和問題は全く知りませんでした。全く知らない人間に対して教育することが良いのか？今でも疑問を持っています。しかし会社で役職上必要でしたので知識はつけましたが。最近の若い方の意識は分かりませんが…。ただし同和問題のみ。人権は別です。教育が必要でしょう。〔60 歳代男性〕
- 同和問題について私は 60 歳代ですが子供が小学校の時 PTA 役員をしていました。そこで同和差別のビデオだか映画を見せられ【特定の職業が】同和だとはじめて知りました。【その場にいた友人も知らなかったと話していた】その時私同様知らない人間にビデオを見せて逆効果やないかと思いました。【略】時代世代が変わって行くなか知らない人が多くなってくると思う。私達の子供など博識者以外、普通の子は知らなくなってくると思う時代の流れです。それを同和同和と騒ぎたてて(行政)寝ている人間に知恵を入れている様な気がしないでもない？〔60 歳代女性〕
- 娘は学校で同和を知り差別という認識をもったので、知らない方が良かったと言っています。〔50 歳代女性〕
- 小学校の時、何時間も同和問題について話し合いの場があり、小学生なりになぜ逆に同じ人間なのに変に分けるんだらうと思っていました。今、私の子どもはそういう地域があることも知らずに育っていて、知らないまま大人になっていくと思います。【自分の小学校の同級生が偏見を理由に同和地区から離れて行った】でも同和問題という言葉すら知らずに育つ子もいるのなら、あまり言葉にしないでいた方がとも思ったり。〔40 歳代女性〕
- 子どももどこまで同和地区の事を理解しているのかわからないし、全く知らないのかもしれない。無知なところに間違った偏見を持たすよりきちんと理解させていくのがいいか、無知なまま知らない方がどちらかと言うといいのではと思う。〔40 歳代女性〕
- 学校での授業がなければ知らないまま成長していたと思います。わざわざ授業で教えてもらいました。知らなければ差別もないと思います。同和地区だけの事です。〔40 歳代女性〕

ほとんどが「学校でわざわざ教えることはない」、「教えることで広めている」、「知らなければ差別もないと思う」という指摘である。また、「無知なところに間違った偏見を持たすよりきちんと理解させていくのがいいのか、無知なまま知らない方がどちらかと言うといいのではと思う」〔40 歳代女性〕と判断の難しさを吐露するコメントがある他、「学校で同和問題などの授業をうけたことありますが、いまいち理解できていないのでお答えしづらい部分もあります」〔30 歳代女性〕との記述もある。

「全く知らない人間に対して教育することが良いのか？今でも疑問を持っています」という人が「ただし同和問題のみ。人権は別です教育が必要でしょう」〔60 歳代男性〕と記していることの意味は、改めて考える必要があるだろう。



## ■困難な課題

教育・啓発活動の必要性はわかるが困難で成果があがらないものだ、という悲観的な見方も5例記されている。

- 上記【人権】の問題はどれも解決は非常にむずかしい。今までの学習、研修で指導者も参加者も空しさと後味の悪さが残るのみ。人が人を差別してはならない、悪であると皆わかっているが…これからは、今までの悪いと思う事を排除して、無限の努力を積み重ねやりつづけるしかない。しかも貴重な府税を使って、つらい事である。  
〔70歳以上男性〕
- 同和問題や人権問題や今後の人権教育、啓発をやっても、昔からのなごりであり良くはならないと思います。〔60歳代男性〕
- 今は一人一人にゆとりのない時代やから、差別、人権、教育、啓発などの講習会を開いても一部の人々にしかわからないと思います。〔40歳代女性〕

## 3-2 肯定的なコメント

今回の調査では、教育・啓発活動に関する自由記述が多数見られた。前節で見た「逆差別」的な意識が多く記されたことを踏まえれば、教育についても上記した否定的なものが多数を占めることが予想されるが、実際には肯定的な受け止めに記すものが数としては多く、さらに、現状の教育や啓発活動のあり方について問題を指摘し、望ましい姿について提言する記述が最も多く見られた。

## ■同和問題、差別への認識が深まった(5例)

まず、自身の経験を肯定的に評価し、教育、啓発活動がさらに充実したものになるべきだとするコメントを見ていく。

- 田舎では差別がとてもひどかったが、中学の時、同和教育の指定校となり、人権問題に関する歴史をたどるフィールドワーク等の学習を徹底的に勉強しまして、差別の無意味なことを知り、それからはいっさい差別は持たなくなりました。昔からの偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人が多いので、若い時に(学校など)学習を受ける事が必要だと思います。〔70歳以上女性〕
- 中学の時に授業で同和問題、部落問題を教わりました。自分のまわりに同和地区があることを知らずに過ごしていたためビックリしました。差別されている人がいるという事に対してもおどろきました。仲の良かった友人が、授業が終わってから「私は部落に住んでいるの」と告白してきました。その時にその友人から「差別を受けている」とも言われたので話合いました。同じ人間なのに差別をされている人がいる、とても悲しい事だと思いました。その時から差別はいけない事なのだと思います、今まで生きてきました。たまたま同和地区に生まれただけなのに、差別されなければいけないなんてナンセンスです。〔50歳代女性〕
- 同和問題について、小学校の時、狭山事件の事を学び道徳の時間にはそのお姉さん

の暮らしぶりについて学びました。多感な頃の私にはすごく衝撃的で今もずっと心に残っています。「差別は決して許してはいけない」と強く心に思いました。〔40歳代女性〕

- 子どもの頃に受けた授業の内容が良かったから、今の感情が形成されていると感じています。大人はもちろん、子供への教育が最も大事だと思います。〔30歳代男性〕
- 小さい時(小学校)での教育はとても効果が大きいと思います(自身も小学校でいろいろと同和問題について教えてもらいました)。純粹にまっすぐ受けとめることができると思います。〔30歳代女性〕

#### ■教育は必要、しないことがおかしい(17例)

- 小、中学生時代から差別ということを教育として特別視せず、自然に教育の中に取り入れること、むつかしいとは思いますが、弱い者扱い(病気、その他)をさせない気遣いが出来る子供を育てることは、家庭の中での教育が大切だと、このことを記入しながら思っています。〔70歳以上女性〕
- 同和教育も進んできましたが逆差別についても考える必要があります。人権教育・啓発についても今後続けていく必要があります。〔70歳以上女性〕
- 民主主義から言っても、すべての人は平等であるべきで差別されるべきではありません。それは学校教育の場でもっと教えるべきだと思います。〔70歳以上女性〕
- 昔の人々から受け継がれた何か根強く残っているのではないのでしょうか。人種差別、人権差別をよくないことだと小学校の低学年から、もっと小さな幼稚園から教育していくことも大切な問題だと思います。〔60歳代女性〕
- 教育が大切だと思います。長い目で見て解決される事、短期で解決される事があると思います。正しい教育が人の心を正しく成長させると思っています。〔50歳代女性〕
- 府内のすべての学校で人権教育にとりくむ必要がある。〔40歳代男性〕
- 差別は無知から起こるものだと思います。生命尊厳が軽視される今の時代、もっとも生命の尊さ、平等 etc を学んでいく機会、特に学校教育の中でとりくんでいく事がこれからの子どもたちにとってすごく大事であると思います。本当の事を知る事、学ぶ事が、必ず差別をなくしていく、理解しあう事へとつながると信じます。〔40歳代女性〕
- 学校の授業で人権問題を取り上げ、良くないという事を教えていく事が望ましいと思います。〔30歳代男性〕
- 幼い時からのふれあいを通じて、大人達が差別なんてする必要すらないことを教え、人間の平等などを政府や学校等が何度も教えるべき。〔20歳代女性〕
- 小学校とかもう少し子どもの頃から教えたらどうでしょう。〔20歳代女性〕
- 子供に聞いたら、小学校の授業で同和地区や差別について考える授業がまったくなく、同和という言葉自体知らないと言っている。主人の出身地では小学校のころから道徳で教えてもらっていたらいい。やはり、子供の頃から教育していかないと、いつま

でも差別はなくならないと思う。〔年齢不明女性〕

- 人権問題は国家の基本であり、豊かな社会とは弱者を擁護する社会であると考えます。子供達への人権教育の充実を期待します。〔年齢性別不明〕

#### ■子どもへの教育こそ必要(2例)

- 人権問題については行政がどれだけ力を注いで活動したとしても、今後改善されるという簡単な問題ではないと思う。それぞれの問題に対して、親が子供の小さいころから教育の一環として教えこまないと、人は自然と差別しているという意識はなくともそういう目で見ている人は多いと思う。〔40歳代男性〕
- 親には気持ちが根付いていると思うので、子供にそういった教育をしていき、子供の意識を変えていく事でその下の代からなくなっていくのでは。〔20歳代男性〕

#### ■教育も大人への啓発も必要(14例)

- 人は一人では生きてゆけない事を基本として、わかり易く啓発すれば良いと思っています。身近な生活の中から例題を見つけてゆけば良いと思います。〔60歳代女性〕
- 学校教育の場だけでなく、社会全体で考えていく必要があると思う。年に最低1回は考える機会をつくり、無関心な人が一人でも少なくなり、多くの人が考えていけるようにしていく必要があると思います。学校教育で教えても、その親、祖父母などの意見が入り浸透しないと思います。数人の考えより、多くの人の知恵や意見は大きな力になると思います。〔40歳代女性〕
- 社会人や成人になってからは人権問題に対しての教育が無いに等しい。企業や行政(町や市)で研修会(ビデオ観賞等)を積極的に行えば良いと思う。〔40歳代男性〕
- あらゆる人にわかりやすく、問題点、改善点など伝えていってほしいです。〔30歳代女性〕
- 学校で子供たちを教育するより、大人や年寄りを教育する必要があると思います。〔30歳代女性〕
- 同和問題自体を知らない世代もあります。私も会社で研修を受けて今もまだこういう差別があるのだと感じたことがありました。知らないですませたら同和問題自体が風化すると思うのですが、まだまだ問題として取り組まなければならないことが問題なのでしょう。〔年齢性別不明〕

### 3-3 あるべき教育、啓発の提案

#### ■教育する側の姿勢に対する批判

ここまで見てきたように、教育について肯定的に評価し、そのさらなる充実を望む声も少なくなかったが、その内容、取り組む側の姿勢については多数の批判や改善を求めるコメントが寄せられている。これらは、今後の教育や啓発活動を進めるにあたり十分留意すべきものである。

まず、教育する側の姿勢を問うコメントを示す。小・中・高それぞれの学校段階で、さらには大学においても「逃げ」の姿勢を感じたという指摘があり、それも若い世代からなされている点は重要である。7例中6例を示す。

- 問題だと取り上げる事項に対しての根本的な理解がされていないまま、物事を進めている様に思える。説明不足、若しくはそれでも良いと思っているのか。〔30歳代女性〕
- 中学の時、ビデオを見ての同和教育を受け最後にこのような感想文を書いたことを覚えており、今現在も全く同じ考えを持っています。その時の文章が「教育の発信の仕方がうまくない、教師の説明も疑問を感じる、こんなかたちではいたずらに中学生の好奇心をくすぐり差別を逆に引き起こしかねない」と。今どのような教育をしているのかは知りませんが、その年代を考えた教育をしてほしいです。〔30歳代女性〕
- 『にんげん』って教科書、あれは使うなら徹底して使うべきだと思う。全ての問題にいえるが、中途半端にしておくのはどうかと思う。同和問題も中途半端に学校側も教えたくない気満々だったと子供心ながら思ったので。世代が代わって消える問題なら一切ふれない、学ばないといけないのなら、全学校で取りくんでいかないとと思う。この手の問題がデリケートで難しいのは分かっているけど、教える側(大学の講師という専門家)ですら尻ごみするのも、学生の時どうかと思った。大学で教職課程とってたときの事。〔20歳代女性〕
- 実はあまり部落差別等の問題は学生時代にほとんど教わりませんでした。今、思い返すとかなりオブラートに包まれて教わっていたように思います(部落差別という言葉は使わず文書等に差別的な要素が使われている等)。そのため、同和問題と聞いてもピンとこないのですが、差別を受けている方々がこの世に存在している事は気分が良いことではありません。いつか解決できる日が来ることを心より願っています。〔20歳代女性〕
- 学校教育の中でもっと授業等で取り入れるべき。しかし、授業は教員の偏見によっても授業が変わるので、教員の授業が統一されるべきである(研修会を設けるなど)。〔20歳代男性〕
- 小、中、高校教育の中で時間をかけ同和、その他の差別問題を提起し啓発すること、また、教育者もこの問題に逃げることなく取り組む。〔年齢性別不明〕

## ■方法や内容についての指摘

教育の内容については、「差別の悲惨さ」だけを繰り返し伝えられることについての疑問、批判が記されているほか、当事者との交流を望むなど、相互理解を促進する取り組みの提案もなされている。

- 差別されている人にスポットをあてて、いかに大変だったかを繰り返し聞かされることで、思いやりの心を生むとは思えません。「又か」と嫌気がさすだけです。それよりも人間の心はどうあるべきかの道徳、修身、哲学など古代から人類が考えてきたことを呈示しつつ、考えさせる教育が必要だと思います。お金で成功した人でなく、人徳者として尊敬されてきた人のエピソードをよりたくさん聞かせる方が、差別に対する意識改善は自然に生まれると考えます。〔50歳代女性〕
- 今までの私の経験から感想は啓発ばかりが印象的です。PTAなどの研修で同和地区の方の私達はこんな差別を受けていますという内容も毎年同じ様な話でこれで何か解決できるの？という印象です。〔50歳代女性〕
- 同和と部落の違いも分からない今の時代の子供達に、差別という言葉だけを強烈に意識させる結果になると思う。こそこそとした教育ではなく、全てをはっきりと伝える事が必要で、もしそう出来なければ問題として取り上げるべきではない。時期を考え、理解を可能なかぎり求めるなら、提起側のしっかりとした考えがまとまってからでないとは人は混乱します。〔30歳代女性〕
- このアンケートに答える中で自分は人権問題に興味がある割に、あまり現状を知らないことに気づきました。でも、それは幼い頃から外国籍や障害を持った人達と抵抗なく関わってきたためでもあると思います。大人が地域や学校で口だけで教えるよりは、子供達が実際に当事者と会って話す中で自然と学んでいく、そんなスタイルの人権学習が一番効果的なのではないかと思います。しかし触れ合うだけではなく、悲しい差別の歴史や現状も同時に学ぶべきだと思います。ただし私が小・中学校で受けてきた教育には腫れ物にふれないように遠回しで具体的に欠ける表現で説明されて、結局子供の心に深く残る物が少なかったと思うので、例えば「同和地区とは～あたりのことで、こんな差別を受けています」のように子ども達がしっかりイメージできるような言い方で教えるべきだと思います。本気で差別をなくしたいなら、その問題に真剣に正面から向き合うべきだと思います。〔20歳代女性〕

こうした記述は8例であったが、その中には、教育や啓発を離れて、地区内外の住民の交流が問題を解決する上で重要なのではないかとする指摘が3例見られた。「情報が氾濫して何が正しいのかが解らないのが現実です。大切なのは、セミナーや講演会でなく、運動会やキャンプ、エコ活動などイベントを主催していただき、その中で意見交換をするなど。」「〔50歳代男性〕、「文化交流の場をもうけて、いろいろなイベントなどを行っていけばいいと思います。」「〔30歳代男性〕」などである。

## ■歴史についての知識を

では、教育、啓発活動についてどのような内容が求められているのか。この点で多く指摘されているのが、同和問題の歴史についての認識を深めるべきだというものであった(8例)。

- 歴史教育。差別の根源は経済問題、憲法にある最低生活の保障がどこまで実現できるかである。〔60歳代男性〕
- 自分自身の中に差別意識があるのも事実ですが偏見をといていくには正しい歴史認識も含めた相互理解しかありません。重い問題ですが啓蒙・啓発に際しては、より親しみやすい手法をお考えいただければよいのではないかと考えます。〔50歳代男性〕
- 同和問題は、国の政策により職業と地域の区別により育って来た。現在に至っては、世代に受け継がれた同和という差別になってしまっている。差別(歴史から始まって現在に至るまでの)についての正確な情報を次世代に伝える事が、同和問題に対しては有効であると思う。私は同和という表現に、同じではないという感じを受けます。子供達には、正確な歴史の情報を受ける義務があるし、その上で逆差別等の政策の行き違いが生じない事が有効ではないか。〔40歳代女性〕
- 同和問題のことを聞いたことがあります、その地区がどのへんか聞いてもはっきりとは教えてもらったことはありません。どうしてそんな差別ができたのか、まず歴史を知らなければいけないと思います。そういう特集などTVなどみんながみる環境をつくってそれから話し合いをしてそういう地区をなくそうと訴えることがいいのではないかと思います。〔40歳代女性〕

## ■情報の不足、情報発信が必要

教育というよりも啓発活動の課題としての指摘であろうが、同和問題や行政の取組みについての情報が伝えられていないことへの不満も指摘されている(8例)。本章の最後に改めて取り上げることになるが、「逆差別」意識の広がりや踏まえれば、どのような情報がどのような形で伝えられることが必要なのか、十分な検討が求められる。

- 同和地区に暮らした事も、友人、知人も居りませんので実際どの様な問題が起きているのか解りません。すべてうわさ話程度です。広報などで正しい情報を知らせてくれたら良いと思います。誤解している事がたくさんあるのではと思います。〔70歳以上女性〕
- 問7【個別の人権問題に関する行政の取組み状況の変化を問う設問】に対して、日常的にほとんど情報が無い(一般人には)。役所と一部関係分野の人の間で止まっているのでは。〔60歳代男性〕
- 同和問題は現状どの程度の問題があるのか知らない人が多いと思います。現状を知っていただくことが必要かと思えます。〔50歳代男性〕
- こういう問題は普段生活しているとあまり目にしないような気がするのですが、ニュースで取り上げられてる事も少ないような気がしますし、恐らくこの封書がこなけ

れば考えなかった問題だと思います。もっと積極的に発信していく問題ではないでしょうか。〔30歳代男性〕

- 見えてこない。伝わってこない。なにか活動しているの？〔30歳代男性〕
- 【同和問題について結婚後に知った。実家近くにはなかった】どこで情報公開されているとか知らない事がたくさんあります。〔20歳代女性〕

## 4. 調査結果の活用のために

### 4-1 この調査へのコメント

自由記述欄には、この調査そのものに対するコメントも書き込まれた。そのうちの11ケースが批判的な内容である。同和問題は「ずっと前の事だと思っていた。…今さら何でかと」、「税金をこういうことに使わないでほしいです」など「調査自体がムダだ」とする内容が4ケース、「同和問題を言い過ぎ。気にしていなかった人まで気にさせている。このアンケートもしかり」と、同和問題を主題にした調査を実施することが「差別意識を助長している」という内容の書き込みが5ケース見られた。これらのコメントは、先に検討してきた「逆差別」意識の延長上にあると解釈できる面もあるだろう。

対照的に、「同和問題について忘れかけていましたが、アンケートにこたえて、改めて考え直す機会となった」、「このアンケートで、改めて難しい問題であり日本国民の大きな課題であると感じました」といった記述も7ケースあった。

また、「こういう調査は結果を受けてどう活かしていくかが大切だと思います。『とりあえずやった』というようなことにならないように、対策を講じていく必要があると思います。分析結果とともに、検証、施策などを追及していくことを継続していただきたいと思います」〔30歳代男性〕という指摘(同様の記述がもう1ケースあった)に対しては、調査の実施側として真摯に応えていくことが求められる。

なお、調査対象者が同和地区住民でないことを前提とした設問となっていると問題視し、差別問題解消のためには「同和地区や在日の人も含めて考えていかなければならないと思う」〔年齢不明女性〕という指摘や、『人権問題に関する府民の意識調査』としながら、この調査は同和問題に関してばかりのものであり、国や大阪府は人権問題の全てが同和問題からきているものだとする見解で取り組んでいるのだということがはっきりとわかりました。残念でなりません〔40歳代女性〕という記述があった。この調査は同和問題に関する意識にテーマを限ったものではなく、「差別問題・人権課題＝同和問題」と行政側が認識しているわけでは決してないが、行政の取組みがどのように受け止められているのかについての手がかりとして重要である。

### 4-2 同和問題以外の差別問題・人権課題

自由記述欄には、同和問題以外の差別問題・人権課題に関わる経験について触れたものが、合わせて23ケース見られた。以下にテーマ別に整理して紹介する。

#### ■障がい者

- 私は盲、ろう者なのでもっと障害者の差別とか就職の問題も併せて取り上げてほしいと思いました。〔70歳以上女性〕
- 広汎性発達障がいの娘に進学の道を広げてください(市教委に要望を述べても無理でした)。啓発が全然なく事件が起こるたび障害名だけテレビ等で取りあげられマイナスイメージばかりついてくる。〔40歳代女性〕



## ■性・年齢・世代

- 性別や年齢による差別(制限)も減らして頂きたい。〔30歳代男性〕
- これから日本を支えていくはずの若い世代へのサービスがなさすぎなので、年配だけでなく、若い世代も住みよい社会をつかって欲しい。〔20歳代男性〕

## ■高齢者

- 認知症をかかえている家族の支援をお願いします。〔60歳代男性〕
- 私の中では差別問題よりも、介護など老人をいたわる事を一番に考えてほしいと思います。今の日本があるのは、今現在生きていらっしゃる老人の方の力が大きいと思うからです。今まで頑張ってもらった分の恩返しは必要です。〔30歳代女性〕

## ■いじめ・虐待

- それよりもいじめられている子供の人権をもっと考えてやってほしいと思います。〔60歳代女性〕
- 同和問題よりも虐待やいじめ問題が深刻だと思う。〔60歳代女性〕
- DVや子供、老人へのいじめ、虐待の問題にもっと取り組んで欲しい。〔60歳代女性〕
- いじめに関しても、本当に難しい問題だと思います。〔40歳代男性〕

## ■外国人

- 私自身外国籍で家内が日本人、色々差別を受けた経験があります。〔50歳代男性〕
- 公務員の意識、特に警察は外国人とわかった時点で態度ががらっと変わる事がよくある。〔50歳代男性〕

## ■貧困・格差

- 貧困差別(就職差別に基づく)(学歴につづく)。男女の差別。〔70歳以上女性〕
- ホームレスなど生存権の問題について対策を行うべき。〔50歳代男性〕
- 同和といった狭い視点で人権を考えるのではなく、新しい差別、所得格差や高齢者のみの世帯といった新しい人の権利に問題を移していく必要があるのではないのでしょうか。〔40歳代男性〕
- 明日の生活もままならない私のような貧乏人は生きづらい国になりました。〔40歳代女性〕

## ■女性が直面する困難

- 私自身も含め、仕事をもっていなくても、社会参加をしているとみとめてほしい。家事、子育ての大変さを知ってほしい。疲れ切っているが、どうしようもないいらだちを日々抱えているのです。〔40歳代女性〕
- 女性一人で生活して将来不安になる。高齢になって病気になったとき、生活をどのようにして安定させられるのか、女性の地位の確保を進めてもらいたい。一人暮らしでも安心して住める町づくりを。〔年齢性別不明〕

## ■その他の差別問題・人権課題

- 私は炭鉱町で育ちまして大阪へ出て来て、出身者が差別されているのにびっくりしました。で、いまだに隠している有様です。映画等のイメージが強く、偏見の目で見られている様に思われました。決して豊かではなかったがよい環境であった事には間違いありません。人に話せない事が淋しい思いです。〔60歳代女性〕
- 同和問題だけでなく、性同一障害も人権問題として取りくんでいただきたいと思います。〔50歳代女性〕
- 学校をはじめ、ご近所づき合い、職場、家庭などいろいろなところでいじめがあります。人それぞれに感じ方が違って、うつ病など他の病気をわずらっている人も多くみられます。弱い人のための相談窓口や、対応していただける部門などがあればいいと思います。相談だけではなく、当事者同士の間に入って仲裁してくれるサービスをつくってほしい。〔50歳代女性〕
- 家族と死別して一人身であるというだけで、職探しにおいて身分の証明の為に「家族に生き返ってもらえば」などと言われた事があった。学歴や能力で判断されるならまだしも、こんな事を言う所が成り立つ様な会社には厳しい指導をお願いしたいです。〔30歳代男性〕
- 皆平等じゃないとはじかれる。日本の平等が平等でないと思う。学校でも、軽度発達障害の子供たちなど個性的な子、自分の意志をはっきりもった子供などがイジメの対象になったりする。引きこもり、ニートもそんな社会に入れたい、人に合わせる事が出来ない人ははじかれる。それが現実です。同和問題も同じです。その人の個性、その人はその人、私は私、みんな **OK** じゃだめなのですか。本当の平等の意味を考えてほしい。〔30歳代女性〕

障がいのある人が置かれた状況の困難さや周囲からの差別、いじめや虐待、外国人への差別など、それぞれが切実な形で経験されていることが想像される内容である。女性が直面する困難さや不安が深刻なものであること、また、貧困についての言及が複数見られたことは、近年の生活の不安定化、困窮の度合いが高まっている表われと言えるだろう。さらに、強い偏見があるために出身地を隠さざるを得ない、周囲と違うことがはじき出される原因になっているなどの経験、親がいないことを理由に求職に際して拒まれるという現実があるという記述からは、困難を強いられている人々を様々な形で生み出している日本社会のあり様が浮かび上がる。格差・貧困の拡大など、生きづらさが今後さらに強まれば、人々が抱く不安や不満がより弱い立場に置かれた人に向けられることが強く懸念される。同和問題についての意識のあり様にもそれをうかがわせるものがあることは、ここまで述べてきたとおりである。

人々が感じる困難や不安、差別経験等について広く把握するための何らかの方策が求められる。そうした実態把握を行った上で、相談や支援、問題解決のための取組みが行われるべきである。

## 5. 「納得と共感」を目指して

### 5-1 逆差別意識の構造

まず、自由記述欄に記された内容の大きな傾向を整理するために、本章の見出しに対応した分類をほどこした結果を示しておく。一つの記述に複数の要素が入っている場合が多く、それらのうちのいずれか一つについてカウントしたため、本論中の該当ケース数ともずれている部分がある。あくまでも概要を捉えるための手がかりとして理解いただきたい。

記述の内容	ケース数	%
「逆差別」意識(行政の対応等)	69	26.0
「逆差別」意識(地区住民の側の問題)	34	12.8
教育への否定的コメント	23	8.7
同和問題はなくなる	4	1.5
同和問題はなくなってきた	6	2.3
同和問題・人権問題が解消されるべき	8	3.0
教育・啓発への肯定的コメント	24	9.1
教育・啓発への批判と提言	31	11.7
わからない	10	3.8
無関心	8	3.0
他の人権課題・差別問題	19	7.2
その他	29	10.9
合計	265	

「逆差別」意識(行政の対応等)の項目が多数を占めているのは、直接に行政の姿勢を問題視する記述の他、「同和地区を優遇してきたこと」や「同和という言葉を使い続けること」を問題視するコメントまで広く含めたためである。また、「教育への否定的コメント」は、教育や啓発に限らず、「問題として騒ぎたてることが問題を継続させる」などをも含めた数である。それぞれの要素がどのように関連しているのか、複数の要素が書き込まれたものについての分析も必要であるが、ここでは概要レベルで留めておく。なお、「差別問題が解決されることを願っている」といった記述が「わからない」あるいは「逆差別」意識」としてグループ化したものの中に記されているケースが含まれていることを付記しておく。

それでは、本章の最後に、「逆差別」意識の構造を改めて整理し、今後の教育、啓発活動において何が伝えられる必要があるのかについて検討したい。

「逆差別」意識を構成するポイントの一つとして「もう差別は解消した」という認識があることを見たが、現実にはそうとは言えないことをまず指摘しなければならない。

「同和地域に住んでいる友人がいますが、確かに様々な悩みを抱えてるみたいです」[50歳代女性]、「小学校の時の同級生は結婚を機に同和地区から離れて行って、地元にいる子がだんだん少なくなっている状況です。まだまだ偏見がある中で生活するのは難しいため、離れるしかないのかと思います。さみしい事だと思います」[40歳代女性]という記述が見られた。そして、「私自身同和地区出身ですが、同和問題で支援など受け

た事が無く、差別は日常的にあります。私にも孫が生まれましたが、現在住んでいる所を出たく思っています。同じ思いを子供、孫達にもさせたくないからです。人生で人に後ろ指さされるような事は何もしていません。まじめに生活してきました。これからも今と同じ様に生活していきます。差別はなくしてほしいです。涙している人が多くいる事も事実」〔60歳代男性〕という経験も記されている。

今回の調査においても、住宅を選ぶ際に同和地区内を避けるという回答が過半数となり、自身や子どもの結婚に際して「同和地区出身者かどうか」が「気になる」とする者も2割いた。結婚差別、就職差別について「なくすのは難しい」という回答がそれぞれ45%、37%を占め、「同和地区はこわい」あるいは「同和対策は不公平だ」という話を聞いたことがある人が6割を超えるという結果についても、先に触れたとおりである。

確かに、以前と比べて同和地区とその住民に対する露骨な差別的言動は姿を消しつつあるが、差別意識は根強く残っていることもまた認めざるを得ない事実である。「逆差別」意識について検討する際、こうした現実を踏まえておかねばならない。

本論で例を多数示したが、「逆差別」意識を記したものの中には、「同和の人」、「同和者」などと、「同和」という言葉がことさらに用いられていることが特徴であった。そして、「同和地区の住民が優遇されることがおかしい、それが差別される原因」であり、「同和がなくなれば、同和地区に住まなければ、差別はなくなる」といった記述が多数見られた。これらは、同和地区の住民の側に差別の原因を求め、同和対策事業を行ってきた行政も加担する側と位置づけていると言えるだろう。

しかし、これらの記述からは、なぜ「同和」という言葉が生まれ、「同和」とされた地区に様々な対策がなされたのかについての認識を読み取ることはできない。地区に住む人々に対する強固な差別意識と、その結果としてもたらされた厳しい生活実態があり、それを軽減、解消することが「国民的な課題」と位置づけられたことが出発点であった。背景に部落差別があることを忘れてはならないのである。

そこで、「逆差別」意識の構造を以下のように整理できるのではないだろうか。

まず、部落差別の歴史、これまでの同和対策の経緯・内容と現在の同和問題の解決に向けた取組み、今日の差別の状況について知られておらず、同和地区とその住民、行政の姿勢についての伝聞・見聞情報(表面的、断片的で否定的な情報であることが多い)、さらには自身の生活苦、不満や不安の高まりが背景要因となって、同和地区とそこへの施策が非難の対象とされてしまっている。伝えられるべき情報が届いておらず(これは現状の教育と啓発活動の問題点である)、伝えられる情報の歪みがあり(日常的に流される情報の影響力は大きい)、これに生活上の困難が加わることで、「逆差別」意識が浸透していくことは当然の帰結というべきかもしれない。これを今日の「逆差別」意識とするなら、過去から継承された差別意識の残存についても指摘しておくべきだろう。自由記述欄の内容からうかがうことはできないが、同和地区に対する忌避意識の背景には、こうした側面も存在しているはずである。

同和地区とその住民に向けられたこのような意識状況を踏まえれば、「逆差別」意識で強調される「何もしない、騒ぎ立てない」ことは大きな問題をはらむと言わねばならない。日常的な経路を通してやり取りされる否定的な情報の流れを断ち切る、誤解を解く働きかけがなされない限り、同和地区に対する否定的な意識、まなごしはそのままに引き継がれることになる。今日の「逆差別」意識と過去から継承された差別意識をともに断ち切る働きかけが不可欠であり、そうでなければ同和地区に対する差別を次世代に引き継いでしまうことになるだろう。

さらにまた、非正規雇用の増加により安定した職に就くことができず、自身の努力と能力の不足を責める若者が増え、正規雇用の若者や子育て中の世代も、労働条件の悪化や家族の不安定化などで困難に陥り、不安や不満を高めていることが知られている。今後の社会情勢の動きにより生活の不安定化がさらに強まっていけば、同和地区だけではない、様々な形で不利な状況(被差別の立場)に置かれた人々に対する敵愾心(差別意識)が高まることも危惧されるのである。

## 5-2 納得と共感を目指して

それでは、過去から継承され、今日状況が強めた差別意識を断ち切るために何が求められるのだろうか。本論で見たとおり、教育や啓発活動に対して高い評価をする者がいると同時に、担い手の姿勢や内容、方法等について厳しい批判が寄せられていた。この課題に応えるために必要なことは、「逆差別」意識についての検討と、教育や啓発活動への批判を踏まえて、伝えられるメッセージと方法について再検討することであろう。

まず、多くの「逆差別」意識の素地となっている特別措置としての同和対策事業については、何よりもその実像が知られていないことがそうした意識をもたらす大きな要因となっている。高度経済成長が進展する中でも劣悪な生活実態のままに取り残され、周囲からの厳しい差別を受け続けていた同和地区の実態を踏まえ、「同和問題の解決が国民的課題」と位置づけられた経緯、行政の責務として住宅、就労、教育などの分野で多くの取組みがなされ、大きな成果をあげたこと、そして、法期限切れを迎え「特別措置」が終了した後、今日では何が行われているのか、これらの点についての情報発信が求められる。例えば、同和地区内に建設された施設について、現在では対象を限定することなく、多くの人々が利用する重要な社会的資源として機能している実態などが理解されれば、「地区だけにあるのは不公平」だとする非難に応えることができるだろう。もちろん、部落差別の原因は同和地区だけに特別措置を行うからであるとの認識など、「特別措置」が生み出した負の側面についても隠さず伝えることが、理解を得るためには必要なことだろう。

同和問題の解決に向けた施策についての理解を深めることは、同和問題、つまり部落差別についての理解とセットでなければならない。同和問題、部落差別についての理解をどう深めるかという課題も非常に重要となる。施策についての理解は主として成人を対象とする啓発活動の課題となるのに対して、同和問題、部落差別についての理解は啓

発と学校教育でともに進められるべきである。

この調査での自由記述においては、教える側の「逃げ腰」の姿勢、伝えられる内容が「オブラートに包まれた」中途半端なもので多くの疑問を残してしまうものだった、さらには、差別の悲惨さが繰り返し伝えられるだけではかえって反感を生み出す結果となっている、との指摘が見られた。

これらの点を踏まえた再検討が求められるが、さらに、「歴史について知ることの重要性」を指摘するものが複数見られた点が重要であろう。これは、同和問題、部落差別について、その起源を知りたい、なぜ今日まで残り続けてきたのかそのわけを知りたいという人々の願いの表われだと思われる。被差別身分の起源は近世以前にさかのぼることができ、経済的文化的な面での活躍や、婚姻や職業活動での活発な移動と交流、身分間の出入りなど、新しく蓄積されている部落史の知見は多くの人々の興味を引く内容となるはずである。また、近代以降も部落差別が支配層に利用されてきたメカニズム、つまり、経済的搾取と民衆の不満を被差別層に向かわせることによる秩序維持の仕組みを知ることが、部落差別とは別種の形で、現代社会にも同様の状況が存在していることを知る契機ともなるだろう。

「同和問題、部落差別は既に終わったこと」という認識が広がっている中、今日まだ続いている差別の現実についても伝えられる必要がある。その際、その部分だけが繰り返し伝えられることは逆効果となるだろうが、命をも奪うことにつながる差別の残酷さ、悲惨さについても内容に盛り込むことは重要である。

また、差別に反対する取組みの成果として同和問題、部落差別が大きく改善の方向にあることを伝えることで、「何をやっても差別はなくなる」という否定的な印象を避けることができるだろう。運動の担い手の姿、地区外との交流を進めるなどのユニークな取組みが伝えられることで、肯定的、積極的なイメージを広げることが可能である。

もう一点、同和問題について知ることは、同和問題、部落差別以外の様々な差別、人権課題についての理解を深める契機となり、多くの人々が置かれている困難な状況とそれをもたらす背景への理解、さらに、そうした困難、問題を解決することができるのだという前向きな認識を可能にする入口としてふさわしい題材であることも指摘しておきたい。「利権」への非難として、弱い立場の者に不安や不満が向けられる傾向にあるが、そうしたメカニズムについて捉え直す契機ともなるはずである。

同和問題、部落差別の歴史、現状、差別のもたらす悲惨な現実と差別の仕組みが果たしてきた働き、差別をなくすための運動や特別措置としての同和对策事業の成果等のテーマについて、多様な方法を活用したプログラムを策定し、学校での教育や啓発の場で展開することが必要だろう。それは、同和問題やその解決に向けた施策に対して少なからぬ人々が抱えている疑問や非難の意識を解消させ、納得を得ることを目指すものである。そしてまた、同和問題への理解が深まることで、「差別は許せない、差別に負けず差別を跳ね返していくことができる、そして、自身の生きづらさをもたらす社会の仕組み

を理解し乗り越える力が自分にはあるのだ」という認識を多くの人々に分け持たせることも可能だろう。これは、同和問題への共感が人々にもたらすものと言うことができる。

これは、多くの自由記述で非難されていたように、同和問題だけが重要であるという主張ではない。「特別措置」がもたらしてしまった負の側面としての「逆差別」意識に対する働きかけが不可欠であり、それは、広く差別問題、人権課題を共感的に理解する糸口としての意義を持っているのである。同和問題への認識の広がり、社会的な取組みが先行することで他の差別問題、人権課題が取り上げられてきた歴史を踏まえれば、「なぜ同和問題だけが優先されるのか」という認識が持たれていること自体不幸な誤解と言わねばならない。その点についてのメッセージも必要だろう。

今回は自由記述の内容を通して一般住民が同和問題について抱いている意識に迫ることを課題としたが、差別的な意識を強く持った人たちの意識と行動について把握し分析することも、今後の教育・啓発活動の内容を考える上では非常に重要な課題となる。

『なぜ差別をするのか』差別する側の意見も聞いてみたい。差別をする事に意味はあるのか。された体験も大切だが、『なぜするか』を問題にすればもう少し差別は減らせるのではないかと考える」〔30歳代女性〕という記述が、まさにその課題を言い当てたものである。

「実際どのような問題が起きているのかわかりません。すべてうわさ話程度です。広報などで正しい情報を知らせてくれたら良いと思います。誤解している事がたくさんあるのではと思います」〔70歳以上女性〕、「同じ日本に生まれ育って教育を受けていながら、どこがどのように間違っているのか、どうして差別を受けなければならないのか、今でもわかりません」〔60歳代女性〕。こうした思いに丁寧に答えていくことが、今日改めて求められている。

「納得と共感」こそ、同和問題が次世代に引き継がれる流れを断ち切り、他の様々な差別問題、人権課題について理解し乗り越える力を多くの人々に伝えるための鍵となる言葉である。